

第2期柏市地方創生総合戦略（案）について

意見・修正案	回答（市の考え）
<p>①地方創生のポイントを北部・東部・中心部の3点に絞っているが、基本思想としては、これで良いと思う。 ただ、優先順位をつけることが許されるとすれば、柏駅前の活性化を最優先としていただけないだろうか。</p> <p>②デパートは、地域での競争がなくなり、独占体制になると、気がゆるみ、これが原因で仕事にミスが多くなり、集客力が低下する傾向がある。松戸市に立地していた伊勢丹デパートが、その好例と云える。</p> <p>③従前、柏駅前は、そごうデパート、高島屋デパートがあり、それぞれが集客力を競い、常磐線沿線（取手市、我孫子市、東武線沿線の市町村）より、多くの人々が集っていた。</p> <p>④そごうデパートが、経営の誤りが原因で撤退し、高島屋の独占体制となった。しかし乍ら、どうも、集客力に疑問が出ているようである。（ただ、デパート方式は消費者に受け入れられないという考えもある。）</p> <p>⑤その点から考えると柏駅前の活性化のポイントは、そごうデパートの跡地（退物）をどのように活用するかにかかっているように思う。競争原理をどのように働かせるかの問題とも云える。</p> <p>⑥ただ、本件は、民間企業の活力の課題であり、市役所が対応するには、限界があると思う。しかし、限界ぎりぎりまで対応していただきたい。</p> <p>⑦独善的なコメントになりましたが、宜しく、ご検討のほどお願い致します。</p>	<p>北部・東部・中心部という「面」において、そこにある資源である「点」を活用し、「面」全体を活性化させていくことが重要であると考えます。中心部という「面」でいえば、柏駅周辺という「点」は最優先事項として考えております。</p> <p>ご意見と同様に、市としましても、柏駅周辺の交流人口の減少は、地域経済の衰退を招き、店舗の撤退や駅周辺の魅力の減少、街のイメージダウンとなり、更なる交流人口の減少に留まらず、定住人口の減少という負のサイクルにつながるという認識を持っていることから、引き続き、多様な商業や飲食店の集積、都市空間の高質化など、街の魅力創出と発信を行い、柏駅周辺の活性化を図り、交流人口の増加を促してまいります。</p>
<p>1. わが街柏の印象 この街に住んで早三十年近くが経ちます。強く感じるのは、閲覧資料に記載の通り、東部、北部、中心の3箇所が夫々特色ある地域となっている反面、北部の発展に対する中心部（駅前）の狭っ苦しさ、北部のイメージ（学と公園と×）と反対の閉塞感そして全体として何よりも3地域の有機的つながりを市民として肌で感じにくい現状です。都市としての一体感の欠如、まとまりの無さ、と申し上げても良いかと思えます。</p> <p>2. 印象が形成された要因 これをもたらしているのは、具体的には ①閉店した商業施設の存在 ②東口と西口の分断化 ③人口動態の偏在化（北部の年齢構成とそれ以外の高齢化） ④行政拠点（市役所、税務署、福祉事務所、図書館）へのアクセスの不便さなど様々な要因が挙げられます。 バレット、アミュゼ、公民館などのハード自体は市民活動向けに整備されており、活用もされていると思われますし、また狭い道路とロータリーを活用した柏祭り、手賀沼での花火大会など魅力的なイベントもありますが、この街の一体感のなさを補うには役不足と思えます。</p> <p>3. 目指すべき都市の構想（例） 中心部を、旧市街地、北部、東部のハブに整備、改造します。改造イコール創生の基本理念は各地域を横串で貫く一体感の創出とします。3地域のそれぞれの発展とは別に、柏市の総体としての一体感の創出を通じて街の魅力アップを実現することが今求められていると思うからです。</p> <p>4. 具体的コンセプト そのためのコンセプトとして、以下の通り例示させていただきます。ポイントは、下のコンセプト候補を、組み合わせて掲げること、つまり複合コンセプトとすることです。 ①目指すべき都市機能を以下のように仮に表現しましたが、市民に計画作りに参画してもらいます。 ・ロボット先進都市（老人介護への応用を視野に） ・キッズ教育応援都市（ソフトウェアを子供が楽しく学ぶ空間とネットワークづくり）、 ・国際交流都市（市民と留学生の交流の、市を挙げての取り組み） ・市内回遊都市（コミュニティバスの自動運転便 特に免許返上シニアの買い回り用）、 ・映像文化都市（キネマ旬報は活用方法によっては核になりうる拠点。松戸とのマンガコラボも視野に）</p> <p>5. 推進方法とコラボプロジェクト ①資金に少額といえども市民を中心とするクラウドファインディングを活用します。 ②都市農業（屋上ファームの誘致）とキッズ教育応援と関連付けて展開します。 ③児童向けキッズパーク（保育園を兼ねる）、出張図書分館（読み聞かせに特化）の駅前での展開（従来の施設を建て替えることが困難として、一部機能を切り出し、アクセスを改善しての展開とします） ④防災拠点（水浄化デモ施設、天水利用、太陽光発電デモ施設を兼ね備えた拠点作り） ⑤道路のパーク展開（車が走り抜ける道路から、人が立ち止まり、少しの間シニアでもくつろげる道路へ） 特に、④に力点を置き、コンセプト群との関連付けにより、国からの補助金獲得も視野に入れます。</p>	<p>地方創生総合戦略は、人口の増加に着目した計画書となっております。いただいたご意見は、人口だけにとどまらず柏市の活性化を様々な視点で着目していただいたものと理解いたしました。</p> <p>同時期に開始する柏市第五次総合計画後期基本計画では、総合戦略には位置づけのない、いただいたご意見のような「国際交流」、「社会基盤」や「防災」の視点も位置づけ、取り組むこととしておりますので、後期基本計画の取組を進めるにあたっての参考ご意見として承ります。</p> <p>また、総合戦略に位置付けられた事業を推進する際は、ご意見のとおり、国の補助金を活用して行いたいと考えております。</p>

意見・修正案	回答（市の考え）
<p>(1)日本の人口問題</p> <p>①総括 昭和年代の終り頃、社会・経済学者の多くが、国が、一定の文明・文化水準に達すると人口が減少する。ヨーロッパ各国が、その例であると云う。</p> <p>②ただし、日本全体では人口が減少するが、日本国内で人口移動が始まり、都市部に人口が集中し、地方の過疎が進むという見方が主流であった。当時、東京都の人口は1000万人であったが、直近では1400万人になったと云う。</p> <p>③日本経済新聞（令和3年1月1日）の記事では、世界が、カーボンゼロを競い始めた。 日本も、2050年までに、二酸化炭素（CO2）など温暖化ガスの排出を実質ゼロとすると宣言した。</p> <p>④化石燃料（石油・ガス）で発展してきた人類史の歯車が、逆回転し、エネルギーの主役を交代する（日経、同日記事）。これは、大きな社会変動を予測させ、当然、人口問題にも影響するのではないだろうか。</p>	<p>人口ビジョンにおいては、主に、出生や死亡、就労や通学といった視点から人口の動向を分析しており、ご意見にありました、「エネルギー」の視点での分析は行っておりません。</p> <p>エネルギー施策が人口の増減にどれくらい影響を及ぼすか予測することは困難であり、総合戦略では、重点的に取り組む施策として取り上げてはいたませんが、同時期に開始する柏市第五次総合計画後期基本計画においては、温室効果ガス削減の推進を位置付け、取り組んでまいります。</p>
<p>(2)コーホート・シェア延長法による人口論</p> <p>①本件、人口論は、柏市人口ビジョンにより、初めて勉強した。初心者である。 また、本件は、国立社会保障・人口問題研究所（日本の地域別将来推定人口（2018））と紹介されている。 おそらく、統計的手法に基づく推定であろう。 このように考えると、広い範囲の人口推定では、一定の正確性があり、市役所殿では、参考にされるのは当然である。ただ、比較的人口の少ない中堅どころの市町村での特色ある人口の転出・転入などの要素をどのように評価しているか、あまり読み込めない。このことから、大いに、参考にすべきであるが、鵜呑みは芳しくないと思う。</p> <p>③柏市の長期ビジョンでは、2050年、柏市の人口を現在と同じ水準である433,000人程度と考えるのは、理解できる。ただ、30年間、固定的に考えるのは、危険と思う。これは、上記のとおり、今後、30年間、カーボンゼロの歯車が、まわることが原因で、経済変動が予想され、これが、人口にも影響することが、推定されるからである。3～5年間の間隔で、人口を考察しては、どうだろうか？</p>	<p>ご意見のとおり、出来る限り、国勢調査の周期である5年ごとに人口推計を行いたいと考えております。</p> <p>なお、当該総合戦略は令和7年度までを計画期間としておりますので、第3期の総合戦略策定時には、人口ビジョンの見直しも併せて必要になると考えています。</p>